勿凝学問 377

財政改革研究会という今日的政治力学のけっこうな原点

2012 年 1 月 17 日
慶應義塾大学　商学部
教授　権丈善一

昨年末の与謝野さんのインタビューに次の言葉がある。

与謝野馨氏インタビュー『週刊社会保障』2011 年 12 月 12 日号
与謝野馨氏（前社会保障。税一体改革担当大臣） 成案には、その基盤をなす重要な四つの報告書がありますので、まずはそのお話をします。 第一は、平成１７年１０月、自民党時代にわれわれがつくった財政改革研究会の報告書です。日本は財政危機に際しており、増税をお願いしなければならないが、社会保障とリンクさせてお願いすることで、国民の理解が得られるのではないか、という内容です。 第二は、平成２０年１１月に社会保障国民会議（座長＝吉川洋氏）がまとめた報告書です。・・・

ここに出てくる「財政改革研究会」（通称　財革研）というのは、自民党政調会長の諮問機関のようなもので、2005 年に会長与謝野馨さん、座長柳澤伯夫さんが立ち上げた。ところがその後、上げ潮派が力をもつことになり、2006 年には会長中川秀直さん、座長甘利明さんが乗っ取って、前の財革研報告書とはまったく逆のいかにも上げ潮派チックな報告書をまとめた。そうすると翌年、2007 年に顧問谷垣さん、会長与謝野さん、座長園田博之さんが取り返したりと、自民党の中で、けっこう面白い陣取り合戦が行われたところ。

また、「埋蔵金」という言葉が、こうした公式文書に最初に登場するのも財革研の 2007 年 11 月の報告書で、与謝野さんが埋蔵金はないと言うと、中川秀直さんが、いやあると言い返し、そのあと 2008 年 2 月に与謝野さんが「いわゆる埋蔵金について」をまとめたりしたのも財革研であったりもする。そして、僕が国民会議に呼ばれるきっかけとなったりするのが、谷垣さん、与謝野さん、園田さん達が、上げ潮派から奪還した 2007 年 10 月頃の財革研だったりもする――言うまでもなく、当時の僕は、あの会議がどんなものか、なぁんにも分かっておらず、言いたいことを言って帰ってきただけだった。

去年 2011 年 7 月 7 日に、HP に財政改革研究会についてまとめていたので、それをここにまとめておくな。

日付	財革研報告書	内容	
2005 年 10 月 25 日	「中間とりまとめ」	「**消費税のすべてを社会保障目的税化する**」の記載が、与党というか、日本の政党の文章としてたぶん初出。	会長　与謝野馨 座長　柳澤伯夫
2006 年 4 月 3 日	「中間整理」	消費税の言葉、一言もなし。 上げ潮政策が記載される。	会長　中川秀直 座長　甘利　明 事務局長 伊藤達也
2007 年 6 月	権丈、『医療政策は選挙で変える』を刊行し、 7 月の参院選では与党に投票するなと書く。		
2007 年 7 月 29 日	参院選で、安倍・自公政権大敗。ねじれ国会となる。		
2007 年 9 月 26 日	福田内閣		
2007 年 10 月	財革研再開		顧問　谷垣禎一 会長　与謝野馨 座長　園田博之 事務局長 後藤田正純
10 月 14 日	権丈、社会政策学会で「年金騒動の政治経済学――政争の具としての年金論争トピックと真の改善を待つ年金問題との乖離」を報告		
10 月 24 日	財革研が、民主党の年金案に詳しい人間を探しているときに、社会政策学会での僕の報告内容を知っていた人物が、僕を財革研に紹介。そこで、財革研に出かけて、社会政策学会で使ったパワーポイントをそのまま使って、「年金騒動の政治経済学」を報告。		
10 月 31 日	なぜだか、権丈に再度依頼があり、年金のみならず社会保障は財源調達問題なんだから、財源調達の方、よろしく頼むよという話などもしてくる。後藤田事務局長に、「先週出した課題の文献は読んだかい？」と聞くと、「いえ、まだです」というから、ちゃんと勉強せぃやと叱る・・・まぁ、彼は慶應商学部卒業だからね（笑）。		

2007 年 11 月 26 日	「中間とりまとめ」	消費税の社会保障財源化、および、「**2010 年代半ばにおけるこれら〔社会保障〕の給付に必要な公費負担の規模は、少なくとも GDP 比 5%程度（現行の消費税 10%程度に相当）と見込まれる。このため、上記（2）の考え方を踏まえ、国民の理解を得ながら、2010 年代半ばに向けて、社会保障給付に必要な税財源の確保を図ることとする**」の記載。 埋蔵金論議への批判もあり。 この報告書をうけて、中川秀直氏が、埋蔵金はあるとコメント。 大林氏の言う、与謝野 vs 中川の路線闘争激化	
12 月 28 日	社会保障国民会議への参加依頼が来る		
2009 年 1 月 7 日	日経新聞が抜本改革年金号！を一面で大々的に発表		
2009 年 1 月 28 日	第 1 回、社会保障国民会議が開かれる		
2008 年 2 月	財革研「いわゆる埋蔵金について」	当研究会としては、これまでに「埋蔵金」との指摘を受けたものについて、改めて、その実態の把握と事実関係の整理を行い、その上で妥当性や財源としての可能性等についても検討を加えることとした。ここに、その結果を極力わかりやすい形でまとめ、お示しする次第である。	
2008 年 2 月 13 日	伊藤達也氏〔中川秀直「財革研」時の事務局長〕が、総理大臣補佐官（社会保障担当）に就任。社会保障国民会議のトップに就く。		
	はい、ここから先は、『社会保障の政策転換』をご参照あれ。		

まぁ、一言書いておくと、先日の 7 月 1 日に閣議報告された社会保障・税一体改革成案についてでは、「**2010 年代半ばまでに段階的に消費税率（国・地方）を 10%まで引き上げ、当面の社会保障改革にかかる安定財源を確保する**」とある。これに「税制抜本改革については、政府は日本銀行と一体となってデフレ脱却と経済活性化に向けた取組みを行い、これを通じて経済状況を好転させることを条件」とした成案が、大林氏が言う、与謝野さんの「初志貫徹するためのラストチャンス」の成果である――2005 年の財革研で会長であった与謝野さん、座長であった柳澤さんは、この成果をどうみ

るか。2007 年の財革研で会長・与謝野／座長・園田の盟友関係を破壊し、自分を呼び込んだ彼をどうみているか。成案をまとめるために民主党との調整をしていた最も重要な時期に、消費税の増税とは対局にいる亀井さんに副総理を依頼していた彼・・・大林さんの書くように、「与謝野経財相の気持ちも傷ついたかもしれません」。しかも、今後、協議に参加してもらえるよう、とにかく野党に平身低頭、頭を下げなければならない大切な時期に、自民党から引き抜きを行う彼。与謝野さんは、どんな気持ちだったろうね。ある面、鳩山さんと同じ気持ちかな。。。

ちなみに、今年の 1 月 5 日、報道ステーションに出演した彼は、「社会保障制度と一体で消費税を含む税制全体」の改革を「政治生命を懸ける覚悟でやっていきたい」と発言。1 月 13 日には、党大会で、「社会保障・税の一体改革に協力しないのは、歴史に対する反逆行為だ」と、野党を挑発する。翌 1 月 14 日には、与謝野さんを三顧の礼で経済財政担当大臣にむかい入れた第 2 次菅改造内閣が発足される。

ところで、なぜ、僕が去年の 7 月に財革研についてまとめたかというと、それは、上でも引用している 7 月 6 日の日経の大林尚さんの次の記事がきっかけだった模様。7 月 6 日の HP に次を書いて、そして翌日 7 月 7 日に、上述の財革研のおさらいを書いているな。なにも、七夕だったから上の、財革研についてまとめたわけではなさそうだ。。。

日経の大林さん、とても良い解説記事を書いてるねぇ。時々彼とは、見解がピタリと一致する――おそらく日本で一番最初に民主党政権を批判したこの記事とかね（2009 年 10 月 14 日参照）

- 逃げた首相、残った「あいまい増税」　クイック Vote 第 56 回解説　編集委員・大林尚

長文なので、ほんの一部を紹介

ほぼ 1 年前の 2010 年 6 月 30 日。参院選を戦っていた菅直人首相が消費税率を引き上げる自らの方針に有権者の理解を求めようと、熱弁をふるった街頭演説を覚えていますか。所得が低い層の負担を増やさないようにする「消費税の還付制度」にふれ、税金を戻す対象とする年収の範囲を具体的に示した発言でした。

まず午前中、青森市で「年収 200 万とか 300 万円」と言い、昼食をすませた後、秋田市では「300 万円とか 350 万円以下」に対象を広げました。そして夕刻、山形市では「年収 300 万、400 万以下のひとには税金の分だけ、全額を還付する」と大盤振る舞いに出ました。日ごろ、法人税減税をかたくなに批判するなど日本経済に活力を取り戻す政策に後ろ向きな共産党の志位和夫委員長ですが、バナナのたたき売りのような首相への反論はふるっていました。「返すなら最初

から取るな！」

・・・

仮に亀井氏が政権ナンバー２として入閣していたらどうなっていたでしょうか。一体改革案はさらに後退していたのは必定です。今のあいまいな表現でさえ、国民新党内には「政府・民主党の決定であって、政府・与党の決定ではない」と公言する議員がいます。亀井氏が入閣要請を断ったので、そのような事態には至りませんでしたが……。

首相がこの人事案を本気で考えていたというのは、驚きです。そう考えた時点で、社会保障と税制の一体改革は、首相にとって取るに足らない政策になってしまっていたといえるでしょう。

１月の内閣再改造で、野党から三顧の礼をもって迎え入れた与謝野経財相の気持ちも傷ついたかもしれません。自民党で財政改革研究会を主宰していたときから、与謝野氏は消費税増税に道筋をつけることに執念を燃やし続けてきました。党内のいわゆる「財政再建派」を引っ張り、竹中平蔵氏や中川秀直氏ら「上げ潮派」との路線闘争を指揮してきた与謝野氏が菅政権に加わったのは、菅氏の政策のぶれの象徴でした。与謝野氏にとっては初志貫徹するためのラストチャンスでもありました。

このときの人事は、衆院東京１区で与謝野氏と壮絶な選挙戦を長年、戦ってきた海江田万里経財相（現経済産業相）を傷つけたことを忘れるべきではありません。与謝野氏の入閣を知った海江田氏が「選挙で戦うことは有権者に選択肢を示し、判断を頂くことだ。与謝野氏との政治方針に当然、違いがあった。人生というのは不条理だ」と述べたのを、菅氏はどう聞いたのでしょうか。

・・・

菅内閣の支持率は 16.2％でした。前回の 17.7％からさらに低下しました。

なんで、16.2％も支持する人がいるのか、それが疑問だ。。。

参考までに――大林さんが書いている亀井さんへの副総理就任要請のあたり、僕は、次のように書いているね。

「政治は税制改革を邪魔する存在」『週刊東洋経済』2011 年 8 月 6 日号